さちこのニュースレター

2010.5
No.30

TEL.２－１４３３　FAX.２－３１５５　URL＝http://www7.ocn.ne.jp/˜sachiko8/okuyama/

「燃やさない」ゴミ処理をめざして

――――――― 大分県日田市バイオマス資源化センター

今、ゴミ処理で一番やっかいなのは生ゴミ。燃えにくい生ゴミをいかに減らすかで、全国の自治体が悩んでいます。コンポストや生ゴミ処理機を使う例や、牛糞と生ゴミを発酵させて堆肥にする例はよく聞きますが、日田市の取り組みは、生ゴミと豚の糞や尿をメタン発酵させて発電し、さらに堆肥や液肥をつくるというものです。今年2月に田村六郎、奥山博文、菊池綾子議員とともに行政視察し、市が生ゴミを燃やさない方針を出し地場産業と環境を守るために指導力を発揮したことに、私は注目しました。

きっかけは養豚業　九州は畜産や養豚が盛んですが、牛糞については酪農家が自ら堆肥化施設をつくり処理していました（2004年家畜排泄物法）。一方、豚の糞尿は尿の割合が多く堆肥化がむずかしいので、養豚業者は処理に困っていました。食料自給と地場産業を進め、環境への配慮も必要との観点から、市として解決の道を探ることになります。

一方、焼却炉のダイオキシン濃度が基準値を大きく超えていたことも問題になっていました。生ゴミは焼却炉内の温度を下げてしまうのでダイオキシンが発生しやすい。これはまずいと、当時の市長がゴミを燃やさない方針を打ち出しました。

なぜメタン発酵か　産業廃棄物である豚の糞尿と一般家庭の生ゴミはともに水分が多いので処理がむずかしい。市は、様々な施設を視察するなどして、これを同時に処理できる方法はないかと検討を重ね、メタン発酵方式を選択しました。日田市特有の事情に合った処理法だと判断したからです。そして、この計画を実現するために、農水省の「バイオマス利活用フロンティア整備事業」を活用しました。

市の負担はあっても　2006年4月供用開始、建設費は９億5千万円。4年たった今、この施設で使う電力はすべてバイオガス発電で賄われています。

豚の糞尿は産業廃棄物として有料で回収し、年間約4000万円の収入。一方、収集袋に入れられた家庭生ゴミは週2回無料で回収し、人件費など施設維持費は約9千万円なので、5千万円は市の負担になっています。

堆肥と液肥の利用　堆肥は年間300トン生産され、20ｋｇ１袋50円と安いので人気が高くすぐに売り切れてしまいます。一方、メタン発酵の副産物としてできる液肥の利用はほとんど農業に限られているため、約半分は処理して下水道に流さなければならず、下水道が整備されていることが建設場所を決める際の必須条件でした。

八丈町の現状は　町のゴミ処理は、昨年からダンボール・新聞などが回収・資源化されるようになりました。焼却灰の量は昨年より約２０％減りました。しかし、紙の量が減ったことからゴミの組成が変化し、以前に比べて燃えにくくなっています。そこで燃えやすくするために用いる重油の使用量が、１０％

次ページへ続く

前ページより続く

程度増えるという皮肉な結果になっています。町も生ゴミ対策が急務です。

汚泥再生処理センターでの堆肥化施設　2012年町に完成予定の汚泥再生処理センターには、汚泥カスと生ゴミを発酵させて堆肥をつくる施設が併設される計画です。生ゴミの処理能力は１日100ｋｇ。ビニールやホッチキス針などが入らないことが条件になるので、当面は給食センターの生ゴミを原料にする予定です。

給食残飯だけでなく、一般家庭や事業者の生ゴミも資源化できれば、焼却炉や最終処分場の延命が期待できます。今後は、八丈町も「燃やさない」ゴミ処理への道筋を切り開くよう、訴えていきたいと思います。

水道料金の改定　3月定例議会で町は水道料金の値上げを提案

町は、水道事業の経営が悪化した原因を　①２つの大型ホテルの倒産　②大口消費者だつた業者が相次いで敷地内に井戸を掘り使用量が減ったこと　にあるとし、経費節減だけでは赤字を埋められないと説明。また、水利用計画を見直し、縮小するためのモデルを考える「水道ビジョン」を策定していることを明らかにしました。

これに対し、値上げの影響を懸念する意見やこれまでの水道事業の進め方への不満が噴出。たとえば、漁業、農業に大きな影響あり。産業全般にも及ぶので何らかの措置が必要（博文）。住宅があれば給水管工事をしてきたが、給水区域を指定し、建築確認申請の際、町の実態を説明すべき(土屋)。水利用計画を考え節水につなげよ（六郎)。などの意見が出されましたが、原案どおり承認されました。

「原山団地」の建設場所変更へ　大賀郷の旧国際観光ホテル隣接地に建設を計画した「原山団地」でしたが、議員から意義が続出。現在ゴルフ場として住民に利用されている状況も踏まえるべきだ（長戸路)、ゴルフ場を新たにつくるとなると莫大なお金がかかる（六郎)、海に近く塩が上がる（綾子）などの意見。私は、住宅地として適地なのか疑問だと指摘した上で、本来元あったところにつくるべきだと発言しました。

町長は、民意があるのだからこの場所はゴルフ場として残すと明言。あらたな建設予定地が神止山近くの町有地に決まったのは、住民の声が議会と行政を動かしたからだといえます。今後の利用方法については、町と利用者で検討することになりました。

ブレイクタイム

これまで私は、議会で、学校のトイレに洋式便器の割合を増やすよう要望し、また歴史民俗資料館のトイレの問題を指摘するなど、公共施設のトイレについて発言してきました。４月、中学時代の恩師が島を訪れたときのこと。街中の宿を紹介したら、トイレが温水洗浄便器（通称ウォシュレット）だったと喜んでいました。この後大きなホテルに2泊しましたが、やはり同様でよかったと話していました。私も、先月青ヶ島に宿泊しましたが、温水洗浄便器でした。

もともとアメリカで福祉目的に開発されたそうですが、今や普及率は6割を越え、日本独特の文化になり海外からも注目されています。トイレの良し悪しは、快適な旅を左右する重要な要素です。高齢者や障害者が使いやすければ、すべての人が使いやすい。すべての人に優しい観光の島をめざして、トイレを再認識してほしいと思います。

2010年3月議会 一般質問

http://www7.ocn.ne.jp/~sachiko8/okuyama/

1．ふれあい牧場を観光牧場と位置づけて振興策を

ふれあい牧場は、牛とのふれあいがないこと、休憩所の展示・販売が貧弱なこと、クリーンエネルギーをアピールすべき風力発電が機能していないことなど、牧場を活用できていない。畜産が低迷している今、育成牧場の役割を維持しながら観光客の期待にこたえる施策を実現するために、ふれあい牧場を整備しなおして、観光振興に活かすべきだ。

観光産業課長　「自然公園法の特別地域」の枠内で制限はあるが、観光客の意見や現状を精査しながら、自然や牛とのふれあいを通じて喜んでいただけるよう整備をすすめて行ければと思います。

再質問　具体的に①ジャージー種を展示用に放牧すること　②「乗牛観光」牛の背に鞍をかけ人をのせる観光で人とのふれあいを　③休憩舎の有人経営を提案するが、町の考えは。

観光産業課長　牛に人を乗せるには牛の調教など、ハードルは高い。ジャージーを入れることは可能でも管理をどうするのかなど、解決すべき課題は多いと考えています。

再再質問　できない理由を見つけるのではなく、どうしたらできるかを考えてほしい。

2．黄八丈を観光に活かせ

伝統ある黄八丈はその価値が認められながら、販売量は伸び悩んでいる。黄八丈に対する関心を呼び起こし消費を促すためには、観光客の目に触れる機会を増やす必要がある。また、観光客に試着の機会を提供し、住民も着る機会を増やすなど、黄八丈をアピールする取り組みを支援する考えはあるか。後継者育成にも力を入れるべきだ。

観光産業課長　黄八丈を今後どのような方法でアピールすればいいのか、黄八丈組合とも相談しながら検討していきます。後継者育成については、人材育成、研修視察を実施しており、PRについては展示販売、広告宣伝を行ないながら振興に努めています。

再質問　住民が着ることで観光客にアピールする取り組みは進んでいるが、町所有の11着のきものを観光客に気軽に着てもらえる方法を考えるべき。組合への補助金は今年度の見直しで減額されている。後継者を育成するには増額が必要だ。

観光産業課長　組合と話し合いをもって今後の方針を決めたい。

3．産業振興策として農産物の加工施設を

地産地消が注目される中で、島の農作物の島内販売は一部にすぎない。これを加工して付加価値をつければ島外に販売できる。空き家などを利用して農産物加工施設をつくり産業振興をはかるべきだ。

観光産業課長　趣旨には賛成ですが、空き家の利用については改修費用や管理面で課題が多いと予想されます。漁協女性部による水産物加工の成功には時間がかかっており、加工する主体と内容を具体的にして、受け皿となる組織をつくることが必要だと考えます。

再質問　商品開発と土産物の島内生産実現のための加工場は必要という町の認識でした。では実現に向けてどのようなプログラムを考えているのか。漁協女性部の活動を参考にして具体案を考えてほしい。

観光産業課長　女性部の経過を参考にして前向きに検討していきたい。

3月議会の審議　・・・・・私の発言から

●　資料館のトイレ　　奥のトイレの入口が男女一緒になっています。観光客がたくさん訪れ、ある程度の時間をすごす場所なのでトイレを使いやすく改善すべき。**町は資料館入口と奥に2箇所あるトイレを、入口を男性用に奥を女性用に使い分けることにすると答弁。すぐに実行されました。**

●　町立病院の食事　　病院食はふつうおいしくないと言われますが、入院患者にとって食事は治療の一環でもあり楽しみでもあります。まず患者にアンケートをとること、変化に乏しいといわれるメニューの改善を要望。**病院事務長は十分においしいとした上で、アンケートについては検討課題としたいと答弁しました。**

●　戦争遺跡　3年前に戦争遺跡の保存をお願いしたが、大規模な改修になり予算もないので出来ないとの答えでした。島にある遺跡はわずかな補修をすれば残せるとの見方もあり、今手をつけなければもうチャンスはない。遺品など朽ち果てる前に資料館に保存・展示すべき。**すべては無理にしても鉄壁山など一部については検討していきたいと回答。**

●　欠航対策のクーポン券　　欠航時に観光客に喜ばれています。お土産などにも利用できるようになりましたが利用場所の案内が不十分。わかりやすい案内のパンフを。**現在利用箇所のリストをコピーして渡しているが、よりわかりやすく利用しやすくしたい。**

●　補助金の削減　各団体に対して事前に削減理由と額を説明する必要があったのでは。**補助事業基準審査会（役場の職員だけで構成）を３回開いた。担当課長から説明するよう指示したが徹底されていなかった。**

●　クリーンセンター修理費の詳細　　毎年3000万円程度の修理費がかかっているが修理の内容は年ごとに違うものか。**町は、クレーン（08年）コンベア（09年）油圧系統（10年）など年次計画をたてて修理し焼却炉の延命をはかっている。**

●　黄八丈組合補助金　　補助金が１割削減されたが、産業振興の立場から増額すべきでは。**新しい事業展開をすれば増額の可能性がある。**

このほか、他の議員からは、「地方交付税の獲得努力を」「赤字解消への努力など航空路線への要望」「ＩＴ関連の予算が多すぎる」「パソコンリース料の見直し」「島外から町に就職した人への生活・精神面へのケアを」「フリージア畑をイベント会場以外にも広げよ」「大島火山学習に代わる冬山体験の意義は」「玉石垣の保存に力を入れよ」「学力テスト結果から生徒の学力向上に力を入れよ」「野球場に室内練習場をつくり国体後の利用を」「基金の状況は」「東海汽船の老朽化したコンテナ対策」「補助金が削減されたがその基準はなにか」など、多くの質問・意見が出されました。

編 集 後 記

今、九州宮崎県で大流行している「口蹄疫」。ウシをはじめヒツジ、ヤギ、ブタなどの偶蹄草食獣に感染する病気で、文字どおり口や蹄（ひづめ）に炎症がおき、発熱やよだれで食欲がなくなります。まん延防止のための処分が進められていますが、畜産家や養豚家にとっては経済的な損害だけでなく、これまで愛情をこめて育てた家畜を処分しなければならない精神的な打撃も大きいことでしょう。国や県の支援はもちろんのこと、私たちも募金などで協力したいものです。今のところ発症していない八丈の牛やヤギについても、これを機会に予防と対策の心構えが必要だと思いました。

さちこのニュースレター
第三〇号／二〇一〇年五月
編集・発行　奥山幸子
イラスト　奥山幸子